



切磋琢磨で伸びる力

完走率98%以上の耐久レース

平成31年度卒業
群馬大学医学部

清水 匠

「果てしない空腹」

私にとっての栃木高校とは、「バイキング」だ。自分の好きなものを好きなだけ食べることができる。好きなものを好きなだけ盛り合わせ、満足するまで食べ続けることができる。栃木高校はまさに最大限の満腹感をもたらす学校なのだ。

私は生徒会長を務め、水泳部に所属して夏の文化祭では小麦色の肌を輝かせつつ、医師を目指した。これを実現させることができた所以こそが、栃高のバイキングとしての性質なのである。私は自分のプレートに余すところなく、自分の望む三種の食材を盛り合わせ続けたわけだが、それはこの学校の環境により永続的にもたらされる空腹感のせいであった。もっと知りたいと思わせる授業を展開する教師陣や、生徒が主体となり作り上げる熱量と泥臭い漢気が詰まった部活動や学校行事、さらには青臭くとも密度の濃い活動の中で築く友人との関係など、いくらでも例を挙げられるが、栃高で体験できる全てのことが私たちに箸を置かせないのである。

最高の満腹感、空腹感なしには得られないはずだ。3年間という限られた時間ではあるが、栃高で見つかる自分の食べたいものを食べ続け、空腹を満たし、卒業とともに胃がはち切れるほどの幸福を感じてみないか？食べたものは血となり全身を駆け巡り、それはまた自身の知となり豊かな人格を形成する。さあ、この学校を食べ尽くせ。

令和3年度3年生
令和元年度
栃高耐久レース優勝

町田 鎌太郎

栃高「耐久」レース

栃木高校の学校行事はどれも素晴らしいものばかりですが、特に印象的なものは栃高耐久レースです。この行事は、文字通り、長距離・長時間を走り抜くという行事です。その距離はなんと約27km。中学3年生の時の僕はこの数字を知って、とても驚きましたが、少し惹かれるものを感じました。多くの人にとって、この距離は未知のものでしょう。そのような本番に備えて、体育の授業で一ヶ月を超える練習期間が設けられます。練習での総走行距離はノルマとして100kmを達成しなければなりません。もちろん、走ることが苦手な人もいますが、決して弱音を吐いたり、あきらめたりすることなく、仲間と励まし合いながら毎日の練習を乗り越えています。しかし、毎日の練習を乗り越えても、27kmを走るのは辛く、苦しいです。僕自身もレース中に何度も限界を感じ、足が止まりそうになりました。そんなときに背中を押してくれたのは仲間やこの行事に携わる保護者の方々、地域の方々、そして先生方の応援でした。その応援のおかげで無事にゴールすることができました。この行事の完走率は毎年、98%を超えます。この数字は、まぎれもなく、栃高生の強さの証です。この行事を通して培った忍耐力は多くの場面で生きていくはずだ。栃高耐久レースは栃高生を大きく、強くしてくれる、素晴らしい行事なのです。

相乗効果で伸びる。行事を通して知る先輩や仲間の能力、そして気付く自分の力。



5月：栃高スポーツ祭



6月：芸術鑑賞会



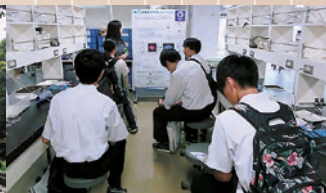
10月：栃高耐久レース(27km)



11月：修学旅行(2年)



7月：東京研修(1・2年希望者)



7月：東北研修(1・2年希望者)



11月：SSH校外研修(1年)



1月：移動教室
「蔵王スキースノーボード」(1・2年希望者)



8月：ボストン研修(2年希望者)



8月：栃高祭



2月：SSH研究成果発表会



3月：校内弁論大会